

今月は、ハウスの巨峰では着色が始まり、トンネル・露地では開花期となります。作型や品種の違いで作業が重なり遅れることがないように、優先順位を決めて作業に取り組みましょう。

### 【巨峰】

#### 《加温ハウス》

##### ○温度管理

- ・昼温 25～28℃
- ・夜温 15～18℃

昼温が 30℃以上にならないように注意してください。水回り期以降の夜温は 18℃に設定します。外気温が 30℃を超える高温となることもあるので、換気には十分注意してください。

着色期に入って果粒肥大が鈍い園ではそのまま 18℃、果粒肥大が良く新梢の身長が旺盛な場合は、15℃に設定し着色を促します。その後、7分着色まできたら徐々に外気温にならし、最低 12℃に設定します。

##### ○水管理

土壌状態を確認しながら、5～7 日間隔で 20 mm 程度を目安にかん水を実施しましょう。7分着色以降は、7～10 日毎に 10～15 mm とやや間隔をあげながら徐々にかん水量を減らします。

##### ○着色促進対策

##### ◇結果量の見直し

作業が遅れている園や葉数に対して着房数が多い園では、成熟期の着色不良が懸念されます。水回り期に入ったら、最終の摘房を行い適正な着房数に調整してください。

目標収量 (10a 当たり) : 1,500 kg (4000~5000 房)

##### ◇枝管理

水回り期 (満開後 50 日) 頃になっても新梢伸長が旺盛な場合は、新梢が重なることで棚面が暗くなります。着色不良など果実品質に悪影響となるので、誘引や下垂作業、摘心などを実施してください。

○病害虫防除

〈袋掛け後〉

◇褐斑病・さび病 オンリーワンフロアブル（2000 倍）

〈着色期〉

◇チャノキイロアザミウマ アルバリン果粒水和剤（1500 倍）

〈臨機防除〉

◇褐斑病 フルーツセイバー（1500 倍）

〈ハダニ発生時〉

◇ハダニ コロマイト水和剤（2000 倍）

《露地・トンネル》

○枝管理

棚面にバランス良く枝を配置し、開花時に十分な光が確保できるように、樹勢や生育に応じて芽かき、枝抜き、新梢の誘引を行います。誘引は伸長した枝から順次行ってください。

○結実対策

◇ホウ素欠乏対策

ホウ素が欠乏すると花振るいを誘発します。開花2週間前と1週間前にホウ砂1000倍を農薬と混用し散布してください。また、土壌が乾燥するとホウ素欠乏を助長しますので、降雨がない場合はかん水を行ってください。

◇新梢伸長抑制

開花期に新梢伸長を抑制し、結実を促すため、展葉10～11枚時（開花始期まで）にフラスター液剤（500倍）を全面散布します。散布時期が早すぎると開花期に効果がなくなり、新梢が再伸長することで実止まりが悪くなります。使用時期については注意してください。

◇受粉の手助け

開花期間中に花軸を指先で軽くはじいたり、棚を揺らすなどして花冠（キャップ）の取れを良くする事も、受粉の手助けとなり結実の安定に有効です。また、開花直前、満開期の薬剤散布の際にトルキャップαを混用すると花冠の落ちが良くなります。

○花穂の間引き、整形

弱い新梢の花穂は早めにすべて落とし、中庸な新梢には1~2花穂、強勢な新梢には2~3花穂残します。強勢な新梢の花穂を摘穂すると結実が悪くなるので、開花期には房の整形だけを行い、実止まり決定後に不要な花穂を落としましょう。

花穂の整形は、開花5~7日前から行います。間引きと同様に弱いものから先に行い、強いものは開花始め~開花期に行います。

○病虫害防除

〈展葉8~9枚〉

- ・オンリーワンフロアブル (2000倍)

〈開花前〉

- ・ダントツ水溶剤 (2000倍) + ペンコゼブフロアブル (1000倍)

〈開花始め〉

- ・フルーツセイバー (1500倍)

〈臨機防除〉

◇べと病常発園 ベトファイター果粒水和剤 (2000倍)

◇スカシバ発生園 フェニックスフロアブル (4000倍)

## 【シャインマスカット】

### ○ジベレリン処理

1 回目：満開日～3 日後 ジベレリン.25ppm フルメット.5 ppm

2 回目：満開 10 日～15 日後 ジベレリン.25ppm

上記濃度の薬剤の調整は、水 2 ℓ にジベレリン粉末の小スティック 1.6g (ジベレリン 50 mg 含有) 1 袋またはジベレリン錠剤 2 錠とフルメット液剤 1 本(10ml)を溶かします。

薬剤は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用しましょう。

### ◇1 回目処理（無核化）

処理適期より早い処理は、軸が曲がりやすくなります。反対に処理が遅れると、花振るいしやすいため、花穂先端まで開花を確認できたものから順次処理を行います。圃場内の開花状況に合わせて、数回に分けてこまめに処理を行きましょう。

### ◇2 回目処理（果粒肥大促進）

2 回目処理の前に形が悪い房は落とします。1 回目処理を最も多く行った日を基準に 10 日程度間隔をあけて 2 回目処理を実施します。

2 回目処理時点で房上部から房先までの長さがほぼ決定します。この時点で房が長い場合、房上部を落として調整しましょう。

### ○摘粒

#### ◇粗摘粒

ジベレリン処理 2 回目を実施後、房の内側を向いた粒、明らかに生育の遅い粒等を除去します。1 段に 3～4 粒程度残し、反対側の粒が見える程度まで摘粒を行きましょう（今月号○p 参照→高品質果実生産の方の摘粒前後の図を見てもらいたいです）。粗摘粒が遅れて果粒の肥大が進むと、ハサミを入れるのが難しくなり、傷果の原因となります。

#### ◇仕上げ摘粒

目標房重：600～700g 粒数目安：45 粒前後 房数目安：2500 房程度

目標房重：500g 粒数目安：35 粒前後 房数目安：3600 房程度

満開後 40 日前（袋掛け前）までに摘粒を完了させましょう。摘粒の際は果粉（ブルーム）を落とさないように軸を持ちましょう。

### ○かん水

シャインマスカットは他のブドウ品種と比較してかん水を多く必要とします。特に開花後 4 週目までの初期肥大が重要となります。開花期から十分にかん水を行きましょう。